

第3回読書のまちづくり市民ワークショップ開催結果概要

日時：平成24年6月7日(木) 18:00~20:20

会場：市立図書館会議室(恵み野西5-10-2)

参加者：ワークショップメンバ - 9名
ファシリテータ - 2名
傍聴者 3名
事務局 6名



開会

テーマ

「今一度条例制定への期待を確認しよう」

「恵庭の地域性について語ろう」

「読書のまちを実現させるために必要なこと・大切なことは何か」

グループ討議

A・Bの2つのグループに分かれ、ファシリテーターを中心にテーマに沿ってワークショップを行いました。

テーマ「今一度条例制定への期待を確認しよう」

Aグループ

- ・恵庭の子ども 将来は...豊かな人生、文化的 条例は確保するもの
- ・恵庭の読書の取組みは子どもに厚い!
- ・明確にすることが必要か
- ・読書のまちづくり 読書をさかんに!? ~読書コミュニティ!?
- ・恵庭は「読書のまち」というイメージ
- ・まちづくりはいろんな切り口ある。その一つが読書 読書コミュニティの市民目標
- ・評価が高いのを知ってるが自分はどうなんだろう その時に条例 インパクトある目標になる!
- ・市民が同じ方向を見るためのもの 道標
- ・「家読の日」を毎月第3日曜日の「道民家庭の日」とリンクさせる
- ・「人と人」から「地域と地域へ」 そこに行政がどう関わっていくか?
- ・読書をするとはどういう姿か? それを条例の中でイメージさせていく

発表

これまでわざわざ条例が必要なのかという思いもあったが明確にするものが必要な

のかもしれないという意見や、子どもが将来豊かな人生を文化的に送ることが条例を作ることで担保される、また条例が目標になり市民が同じ方向を向くための道標になるなど大変活発な意見が交わされました。



Bグループ

- ・発達段階や年齢にあった読書活動
- ・大人が利用しやすい読書環境が必要 小中学生は現状で大丈夫
- ・お年寄りの読書 絵本や児童書の可能性
- ・本を通して地域がよくみえる
- ・「読書」だけが本との関わりではない
- ・給料の1割を本に使う
- ・読書の可能性がみえるもの
- ・条例は市民の読書の心得
- ・読書のまちをゆるぎないものにする

発表

条例は恵庭市民の読書の心得的なものになり、これからの読書の可能性が見えるものではないか、様々な活動の取組を試みたいときの根拠になり、条例により読書のまちが揺るぎないものとなるのではないかと話し合いました。また読書と条例の接点がなかなか見えないなどの意見も出されました。



テーマ「恵庭の地域性について語ろう」

Aグループ

《THE 恵庭》

<自然環境>

- ・水と緑と花の調和のとれたまち
- ・自然環境が美しいまち
- ・明るいイメージがある

<アクセス>

- ・市外への交通のアクセスがよいまち 市内交通の便がイマイチ

<住み良さ>

- ・ボランティア活動が盛んなまち
- ・人口規模が適度で人情味が伝わるまち
- ・準都市型か 都市型になりきれない所の良さ
- ・知人から「良い所だよネ」って言われる
- ・住んでみたい街～文化的（教育）レベルが高い、医療関係も充実、子育てしやすい
- ・マスコミからも印象が良い

<文化系>

- ・えこりん村、大学、専門学校がある
- ・読書で検索すると恵庭がたくさんヒットする
- ・文化活動や市民活動、ボランティア活動が盛んなまち
- ・地元FMラジオ局がある

<未知のわくわく>

- ・まだ知らない所がたくさんある…。知らないことも
- ・子どもたちの読書の成果に期待 ブックスタート世代の成長

<ちょっと残念>

- ・まちができてきた歴史的背景が邪魔をしている（島松・恵み野・恵庭）

発表

皆さんの意見を「THE 恵庭」として分類してみました。まず自然環境ですが、きれいな町で自然があり明るいイメージがある、交通アクセスは市内へはイマイチだが市外へは便利、また住み良さでは人口規模が適度で人情味が伝わるまち、恵庭に住んでいると知り合いから「いい所だよネ」と言われる、市立病院がないためか医療関係



がしっかりしているし、子育てがしやすいという話もありました。大学や専門学校があるので若者が集まり文化活動やボランティア活動、市民活動が盛んなまちという印象です。地元FMラジオ局があるのも情報発信に大きな力となっています。ちょっと残念なことでは、まちができてきた歴史的背景が邪魔をして島松・恵み野・恵庭に分散されているという意見もありました。未知のわくわくでは、ブックスタート世代の子ども達が成長し読書の成果が見えてくる頃ではないだろうかと話しました。

Bグループ

- ・札幌の衛星都市

- ・札幌や東京へは便利（都会ではないが田舎でもない）だが、素通りのまち
- ・お年よりや障がいのある人の居場所が少ない
- ・自衛隊のまち、福祉が充実、文化が花開くまち～時々大砲の音がきこえるまち
- ・農業のまち、お米のまち、ガーデニングのまち
- ・小中学校に図書館司書のいるまち
- ・図書ボランティアがたくさんいるまち
- ・島松地区＝北陸県人・農家出身、恵庭地区＝山口県人・武士による開拓、恵み野地区＝新しい住人 三地域の接点がうすい
- ・郷土芸術の衰退～すずらん踊りなど
- ・何かにかんばっているけれども（花・読書？）特徴がない
- ・のびのび元気、水が美味しい、空気がキレイ、自然溢れるまち
- ・人と人とのつながりが近いまち～知り合いの知り合いは自分の知り合い

発表

まず、自然が豊かでのどかなまち、歴史的には農業のまち、中山久蔵さんが島松沢で米作りを続けていたお米のまち、カリンバ遺跡が出てきたこと、今現在はガーデニングが盛んなまちであることなどの話ができました。また、課題として郷土芸能がどうもうまくいかない、まちが三つに分かれ互いの接点が薄いのではないだろうか、お年寄りや障がいのある方の



の居場所が少ないのではないだろうかと話し合いました。ほかに東京や札幌に出るには便利だが素通りされてしまう、自衛隊のまち、福祉が充実し文化が花開くまち、図書ボランティアがたくさんいるまちなどの話もできました。

テーマ「読書のまちを実現させるために必要なこと・大切なことは何か」

～各取組を誰が担うべきかを⇒で表示～

Aグループ

〈読書で育つ力〉

- ・思考力、想像力、知識力、コミュニケーション力⇒市民・家庭・学校・町内会
- ・夢とロマンと勇気⇒市民・家庭・学校
- ・ブックスタートから生涯にわたる長期的なスパンで！！⇒市民・家庭・学校・行政
- ・親へのいいわけの文章力から説明力へ、そして気持ちを伝える力に！⇒市民・家庭

〈場〉

- ・身近な読書機会の場の創造⇒市民・家庭・行政

- ・郵便局、銀行、スーパー、コンビニなどで本が返せる場の整備⇒行政・市民協力
- ・読后感の共有による世代を越えたコミュニティ⇒市民・家庭・学校・行政・町内会・商店・企業・公共施設
- ・学校図書館の開放（大学・専門学校も含む）⇒学校

〈人〉

- ・読書コミュニティは人づくり⇒市民・家庭・学校・行政
- ・「つなぐ人とつながる人」は「地域と地域をつなぐ」⇒市民・学校・行政・町内会
- ・読書のまちづくりに詳しいコーディネーター⇒市民・学校・行政
- ・ボランティア団体（図書関係以外も）のネットワーク化⇒市民・学校・行政
- ・家庭だけでなく企業・商店・学校・公共も！⇒市民・学校・行政

〈図書館の役割〉

- ・市内のいたる所で本が借りられるブックステーションや分室の整備⇒行政
- ・公共図書館の殻に閉じこもらない柔軟な対応（常に市民の立場で！）⇒行政
- ・市民の文化的水準の高揚を保障⇒行政
- ・市民が集えるイベント・アイデアの発信⇒行政

発表

与えられたお題の他に選んだのは「人」です。人と人とのつながりを発展させ、その力を借りて地域をつないでいくという考え方がないとまちづくりは進んでいかないだろうと話し合いました。また読書のまちづくりに詳しいコーディネーターや企業、学校、行政もそれに関していかなければならないと思います。「場」では身近に読書を行

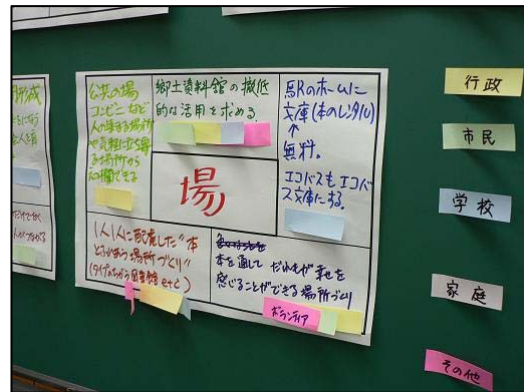


行う場の整備や共有できるコミュニティなどにより、それぞれの役割を果たせばいいのではないかという意見がでました。「読書で育つ力」では、知識力、想像力、思考力などの他に、コミュニケーション力や夢とロマンと勇気という素晴らしいフレ－ズも出ました。親に言い訳をする文章力もつくとの意見があり、説明する力や気持ちを伝える力もコミュニケーション力の一つといえるでしょう。「図書館の役割」では、買い物帰りに立ち寄れるような場づくりや市内全域に本が借りられるようなブックステーションなどの整備、図書館を公開するナイトツアーや「道民家庭の日」と「家読の日」のリンクなど市民の文化的水準を高めるための支援に柔軟に対応することが大切ではないかと話し合いました。「まちづくり」ということばよりむしろ「まち育て」という言葉の方が適切ではないか、そこを私たち市民も考える必要があるのではないかなど、与えられた言葉を通して発想を大きく広げることができました。

B グループ

<交流・つながり>

- ・郷土の歴史、和木町とのつながり⇒学校・行政
- ・ボランティア活動を通して学校、保護者、地域が協力し合える⇒市民・家庭・学校
- ・本に関わる意見の交換で生まれる人と人との交流やつながり⇒市民



<場>

- ・公共施設やコンビニなど人の集まる場所や気軽に立ち寄る場所から閲覧⇒行政
- ・郷土資料館の徹底的な活用⇒市民・学校・行政・その他
- ・駅のホームに文庫や本のレンタルを、エコバスにエコバス文庫を⇒行政
- ・一人ひとりに配慮した「本とふれあう場所づくり」⇒学校・行政・ボランティア

<読書で育つ力>

- ・想像力～頭の中で映像や言葉を考える、相手の気持ちを思いやることができる力、夢を実現する力⇒家庭・学校
- ・行間を読むことで話の本質を理解出来る力を育成⇒家庭
- ・子どもの読解力を形成⇒市民・学校
- ・環境づくりの応援～ブックスタート、学校司書、様々な待合場所の利用⇒市民

<読書の可能性>

- ・書籍購入の一定予算を確保（家庭を含む）⇒家庭・行政
- ・郷土愛が生まれる～本を読み恵庭を思う～⇒家庭
- ・人間形成～未来を担う社会人を育てる⇒学校
- ・ボランティアなど本を通じた人と人のつながり⇒市民
- ・理想的な子育て、家庭環境～様々な情報を獲得しいじめやケンカなど子どもたちの悩みを解決～⇒家庭・学校

<図書館>

- ・老若男女、健康な人もそうではない人も障がいのある人もない人もみんなが集い、集いたくなる場所⇒行政
- ・インターネットと異なるコミュニティの場（町内の話など様々な情報交換）⇒市民
- ・地域ごとに図書館を設置（学校図書館を含む）⇒市民・家庭・行政
- ・店舗や家屋を借りたミニ図書館、図書館に行けない人のための移動図書館⇒市民・家庭・学校・行政

発表

お題の「場」では、乗車客が少ないエコバスを利用した「エコバス文庫」など、交通アクセスなどの理由により高齢者が図書館を利用しづらい面があるので、大人を対象にした環境づくりが必要だと思いません。次に「読書の可能性」では、読書を通じた人間形成や未来を担う社会人の育成という意見がでました。本を通じて人と人がつながることが重要であること、図書



ボランティアの活動で学校に行くとそこで交流が生まれ地域がよく見えてきたという体験談もあり、地域をよく知るためには大変良いということなどを話し合いました。「図書館」では、地域と結びつくコミュニケーションの場にしてはどうか、お店を借りてのミニ図書館や移動図書館なども必要ではないだろうかなどを話し合いました。お年寄りの読書活動では、孫と絵本を読むことで生まれる展開を期待し、孫が図書館に行くときに一緒についていけば足繁く図書館に行くのではないかという提案がありました。給料の1割を本に使ってはどうかという提案もありました。実行すれば結構な量になりますが、それくらいの考えを持ちお金をかけて身につけていくということでしょう。読書することだけではなく、本を通して一つのコミュニティ、地域をつくり上げていき、地域や社会との繋がりを持つことが大事だと話し合いました。

まとめ（ファシリテーター）

Bグループで選んだお題の「図書館」では、各取組ごとに役割を担うところが示され、どのように盛り上がったか興味深く聞きました。Aグループで子どもへの取組が出てこなかったのが印象的です。すでに整備されていることが前提であるという共通認識によるためと考えられます。市民が読書している姿を想像し、条例の中でそれが伝わるイメージが出来れば良いという意見もありました。それぞれのグループの発表を聞かせていただきましたが、大変内容のあるものでした。以上で本日のワークショップは終了とします。ありがとうございました。



閉会